

厳しい残暑で9月も要注意！

【2023年の熱中症による救急搬送の傾向について】

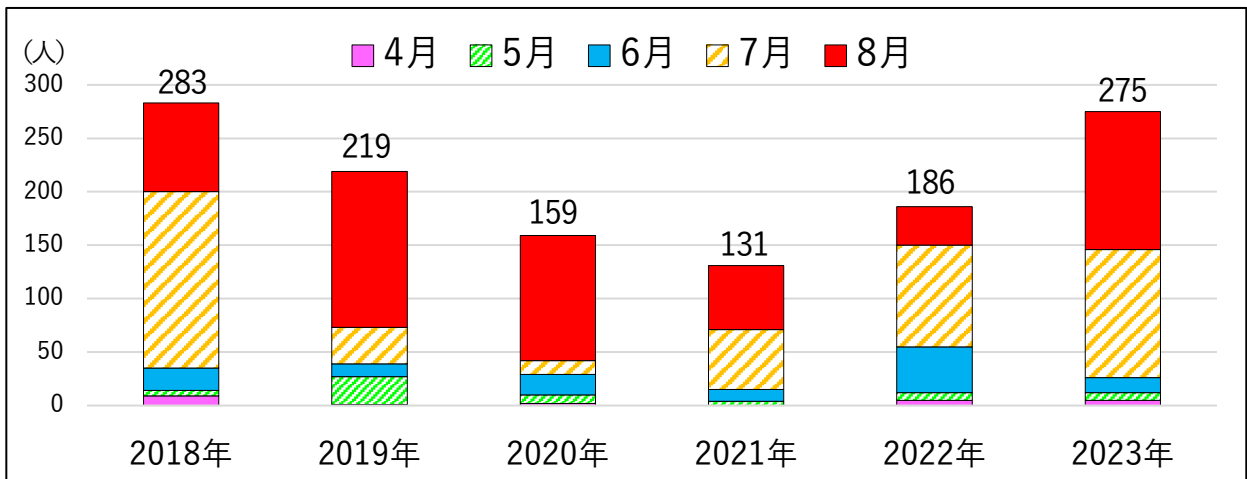
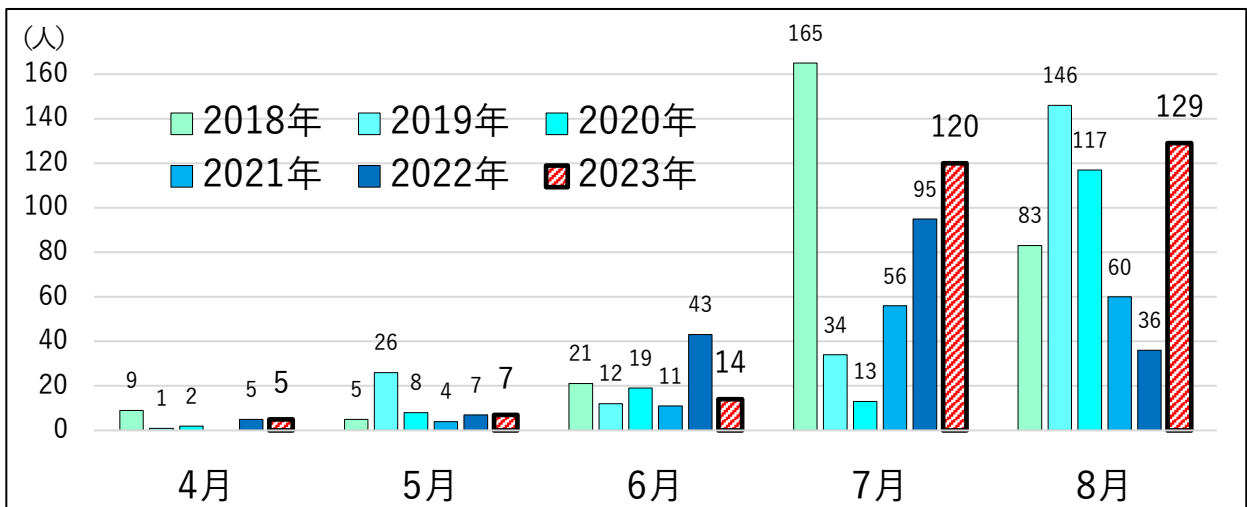
今年は、梅雨明け以降、猛暑日や真夏日が続き、例年にも増して熱中症による救急搬送者数が多い状況です。今年は、例年のように梅雨明け直後に急増した後にピークアウトすることなく、梅雨明けの7月中旬から約1か月半に渡って搬送者数が多い状況が続いているのが特徴です。

引き続き残暑が厳しく、熱中症に対する注意が必要であることから、2023年の熱中症による救急搬送の傾向（8月31日現在）を、以下のとおりまとめましたのでお知らせします。

※ 小数点を含む数値は、少数第二位を四捨五入して表記。

■ 熱中症による救急搬送者数の比較

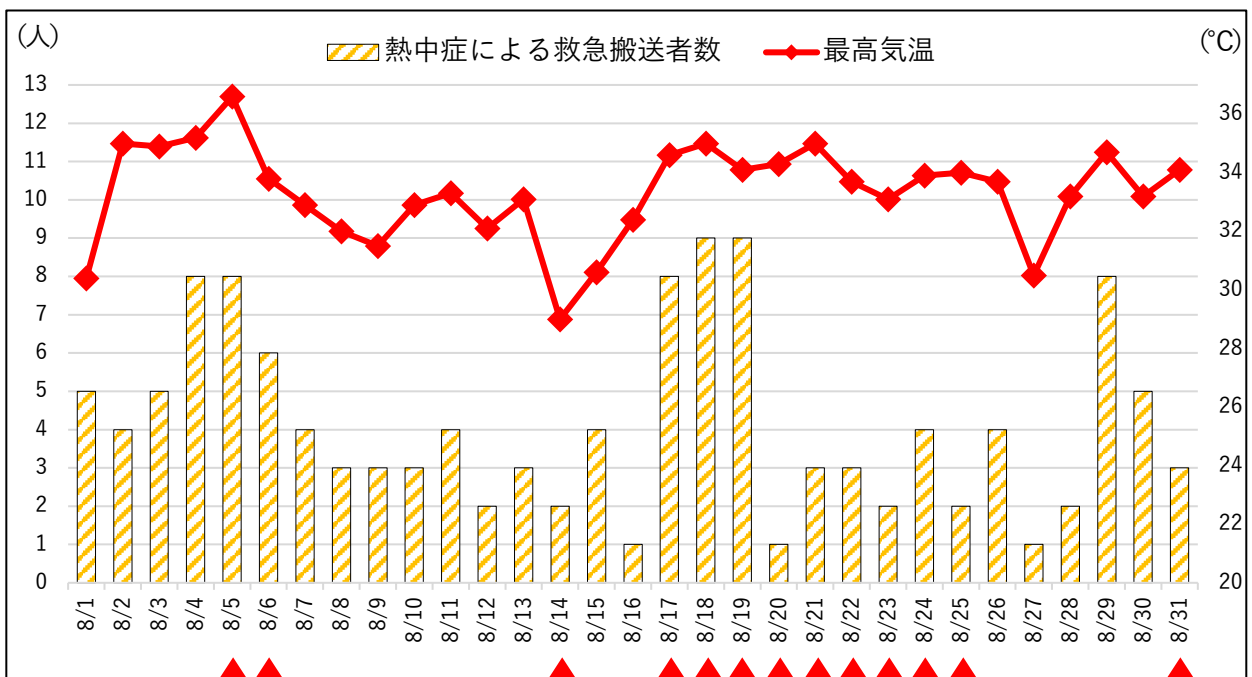
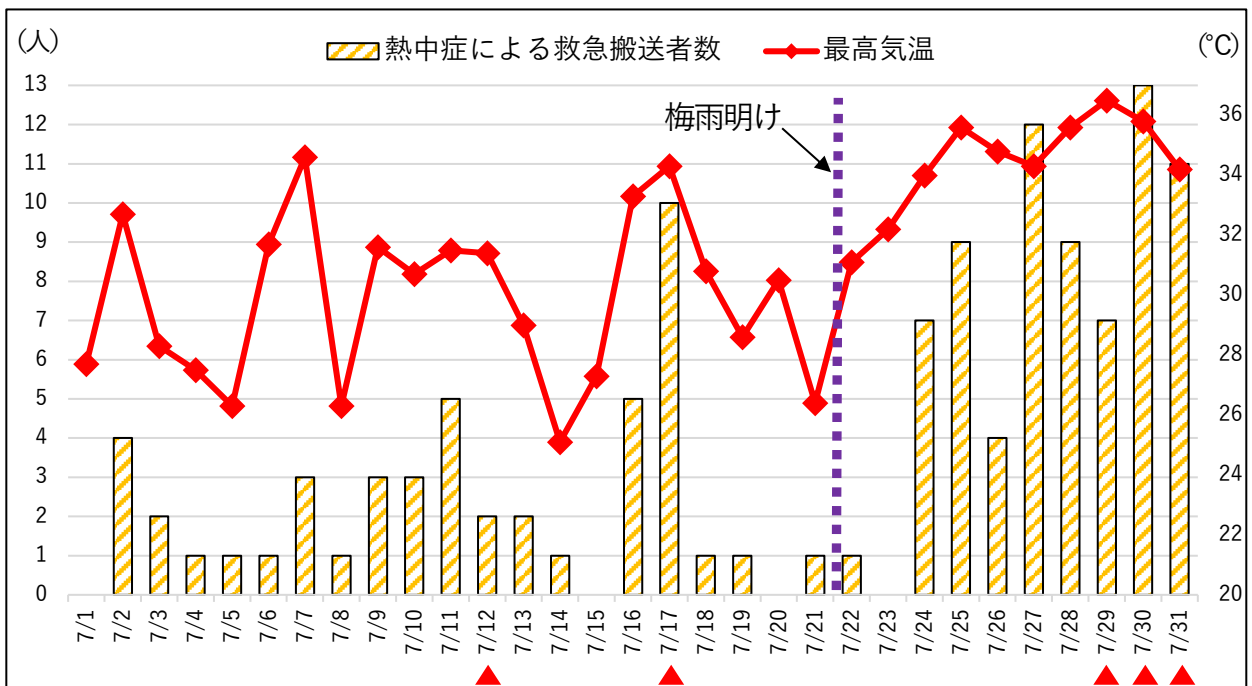
2023年の熱中症による救急搬送者数をみると、4月から6月は平年並みの人数で推移した一方で、7月は2018年に次ぐ人数、8月は2019年に次ぐ人数となりました。2023年の4月から8月までの合計も、統計を取り始めてから最も多かった2018年に次ぐ人数となっています。



■ 2023年7月と8月の熱中症による救急搬送者数と最高気温の推移

熱中症による救急搬送者数と消防本部観測の最高気温の推移をみると、梅雨明け以降は継続して最高気温が30℃以上で推移し（30℃を下回ったのは8月14日のみ）、梅雨明け翌日の7月23日を除き搬送者数を計上しました。高気温と熱中症による救急搬送者数は、相関関係にあるとみられ、9月も残暑が厳しいと仮定すると、引き続き熱中症による救急搬送者数が計上されることが予想されます。

なお、福島県に熱中症警戒アラートが発表された日は、7月が5日間、8月が13日間と、これまで最も多くなりました。

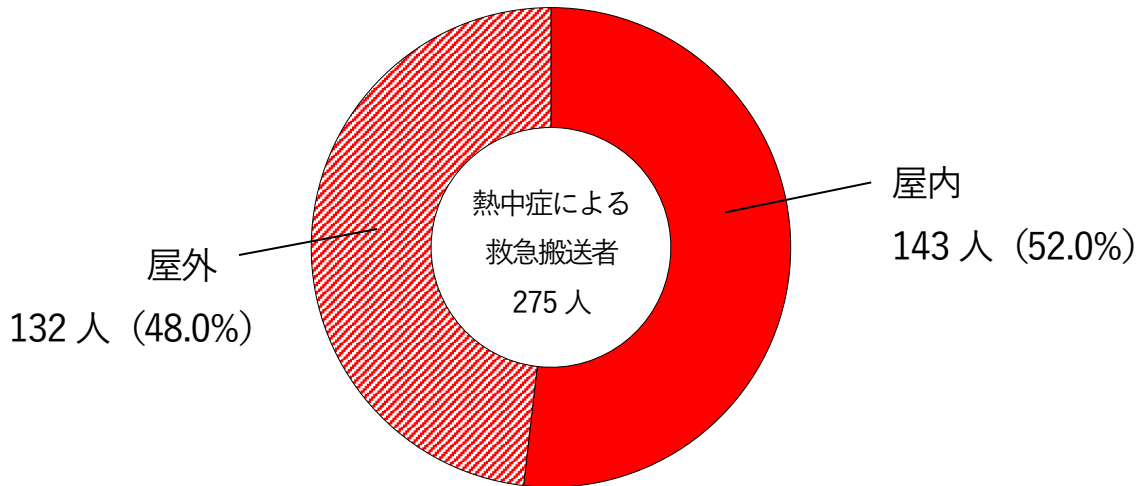


▲：熱中症警戒アラート（R5年18回（8/31現在）、R4年2回、R3年8回）

### ■ 熱中症発症時の屋内外別の搬送者数

2023年シーズンの熱中症による救急搬送者を発症時の屋内外別にみると、屋内での発症が143人（52.0%）、屋外での発症が132人（48.0%）となります。

※ 救急要請時ではなく、発症時の屋内外別であるので注意。救急要請時の屋内外別では、屋内の割合がさらに高くなります。



### ■ 屋内におけるエアコン使用の有無別の搬送者数

2023年シーズンの屋内で熱中症を発症し救急搬送された人をエアコン使用の有無別にみると、「使用なし」が102人（71.3%）、「使用あり」が33人（23.1%）、「不明」が8人（5.6%）となります。

